

## 平成30年度 学長戦略経費（公募型プロジェクト）研究成果概要報告書

経費の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 共同研究推進 <input type="checkbox"/> 若手教員研究支援 <input type="checkbox"/> 個人研究支援 <input type="checkbox"/> 研究推進重点設備 <input type="checkbox"/> 研究推進設備修繕		
プロジェクトの名称	小学校英語教科化に向けた教材および指導・評価にかかわる共同研究		
報告者氏名・所属・職名	梅本 宏之      釧路校 教職大学院 特任教授		
プロジェクト担当者氏名・所属・職名	萬谷 隆一      札幌校 教授 石塚 博規      旭川校 教授 志村 昭暢      札幌校 准教授 堀田 誠      釧路校 准教授 内野 駿介      札幌校 特任講師 伊藤 光      附属函館小学校 教諭 西本 有希      附属札幌小学校 教諭 上野 健太      附属旭川小学校 教諭 種田 育未      附属釧路小学校 教諭 小野 祥康      附属旭川中学校 教諭 千葉 一博      附属札幌小学校 副校長 木原 英俊      附属札幌中学校 副校長 米津 理臣      附属旭川小学校 副校長 西岡 裕英      附属旭川中学校 副校長 林 政孝      附属釧路小学校 副校長 小林 一博      附属釧路中学校 副校長 五十嵐 義幸      附属函館小学校 副校長 白川 卓      附属函館中学校 副校長		
研究内容及び成果の概要			
<p>小学校英語は2020年より教科化され、その教材・指導法・評価法について、教育現場のニーズはきわめて高まっており、本学にとって必要な知見を提供することは高い社会的使命となっている。小学校英語教育は、まだ未開拓の部分が多く有り、とりわけ具体的な教材・指導法・評価法にかかわる独自の研究が必要とされている。</p> <p>本研究は、中期目標14および中期計画30ともかわり、平成25～28年までの附属学校8校と大学の共同による文科省研究開発の指定を受けて開発してきた教材・指導法・評価法について、その成果を継承しつつ、大学・附属学校・教職大学院の共同で、大学での教員養成カリキュラムでの活用に取り組んだ。具体的には、文科省研究開発で開発したICT教材（スノーマン）と教育課程の段階的目標として開発したCan-do形式の到達目標群（小学校および中学校英語用）を教員養成課程において活用する取組を行った。</p> <p>文科省研究開発で開発したWeb教材（スノーマン）については、語彙指導および児童の動機付けの視点から教材の活用と改善に取り組んだ。附属教員は、本プロジェクトにおいて取り組んだ内容について、各校の研究紀要に、指導と評価およびICTの視点で連動した内容を反映させている。次に、教員養成学部教員は、附属学校教員と協力して、当該教材の実践的活用について、大学での小学校・中学校英語関連科目において活用する取組を行った（札幌校、釧路校）。また、Can-do形式の到達目標群についても、大学での授業において評価関連の題材として活用する取組を行った（札幌校、釧路校）。これらの取組においては、学部学生は教材および評価の考え方についての講義を聞いたうえで討議・振り返りを行った。たとえばある学生は「スノーマンプロジェクトを通して各校オリジナルの取組を共有していくことでより活発な授業づくりが行われていることや、can do リストを通してより深い学びにつながる取組があることを初めて知り英語の授業がより高いレベルで行われる努力があることを興味深く感じた。」と述べている。教職大学院においても、双方向遠隔システムによる授業において、札幌、函館、旭川、釧路の4校の現職教員を含む院生に、研究成果や実践資料の紹介も行った。さらに、上記Web教材による英語指導、附属学校開発によるCan-doを活用した評価等について、大学院の授業において、学校教育での活用の視点から検討した。このほか、スノーマンおよびCan-do評価に関わり、本学主催の小学校英語・小中連携フォーラムにおいて研究発表を行った（12月16日附属函館小学校伊藤光教諭）。また研修会・研究会等でも広報・啓蒙に努めた（平成30年7月6日附属札幌小学校研究大会、7月26日附属札幌中学校研究大会、8月8日北海道教育委員会石狩教育センター研修等）。</p> <p>なお、上記教材については、本学が運営する小学校英語のコミュニティサイトCELENET(現在：約1700人</p>			

登録)のサイトと連携して「スノーマン」は、Web 上で時間と場所に縛られずに利用できるようにした。さらにスノーマンが準拠している、附属学校で共同して開発した小学校英語活動用のテキストである Hello from Hokkaido(1年—6年)も、Web 上に公開したことも本プロジェクトの成果の一つである。このテキストには多様な自己表現活動が用意されており、そこでの自己表現活動に、地域に密着した、児童の身近な素材を盛り込んだスノーマンの教材データベースが有効活用できる。札幌校の初等英語においては、当該教材を使った演習も行った。

本研究の成果は、附属学校での試行を経た教材・評価方法を活用し、教育現場への利用を促し、また本学の小学校英語の教員養成プログラムへの組み込みと貢献において、一定の成果があったと判断している。

今後とも、このプロジェクトの成果を継続的に生かして、実践と研究に取り組んでいきたい。

## 成果の公表の状況

### 【著書】

北海道教育大学附属札幌小学校(2018)『自己を創る学びをデザインする子ども』研究紀要, No.65,156 頁。

北海道教育大学附属札幌中学校(2018)『自己を拓き、協創する生徒の育成-「自律」と「共栄」に向かう学び・「学び舎」の創造-』研究紀要 No.64,160 頁。

北海道教育大学附属旭川小学校(2018)『学習指導の実践研究 学びをつなぐ子供を育てる教育活動の創造 2 年次「深い学びを実現する学習づくり」』No.65, 117 頁。

北海道教育大学附属旭川中学校(2018)『新たな価値を生み出す学びのプロセスに関する研究 ～自らの思考を自覚的にとらえ、他者・世界・自己と関わる深い学びに向けて (2年次)～』No.66, 90 頁。

北海道教育大学附属釧路小学校・中学校(2018)『小中連携研究 自ら学ぶ意味を創造できる児童・生徒の育成～「個の内面化」を促す学びのデザイン～』122 頁。

泉恵美子・長沼君主・アレン玉井光枝・萬谷隆一他(2019)『小学校英語 Can-do 評価活用マニュアル』小学校英語評価研究会, 145 頁。

萬谷隆一(2018)「評価のあり方」『平成 30 年度小学校の英語教科化に向けた指導力養成講座研修資料集』埼玉県教育委員会, 58 頁。

## 教育現場で活用可能な分野・教材等

北海道教育大学附属学校共同開発教材 Hello from Hokkaido

ピクトフォリオ(英語語彙・表現の共有型データベースSnowman : CELENET (<https://celenet.info/>)に所収)

### 配布又はダウンロード可能な資料

北海道教育大学附属学校共同開発教材 Hello from Hokkaido

本学運営SNSのCELENET (<https://celenet.info/>)に所収)

英語語彙・表現の共有型データベースSnowman : CELENET (<https://celenet.info/>)に所収)

### 問い合わせ先

代表者：梅本 宏之 釧路校 教職大学院 特任教授

電 話：0154-44-3383

FAX :

mail : [umemoto.hiroyuki@k.hokkyodai.ac.jp](mailto:umemoto.hiroyuki@k.hokkyodai.ac.jp)